



こんにちは。

ぼくはフィンフィン。

とおい星、テオに住んでいるイルカです。

すきなものはエルモの実とツブのたね。

小さな魚も食べますよ。

そして、ぼくは空を飛べるんです。

くるくる、アクロバットのように飛ぶのは、

ぼくたちの信号。ことばのかわりに、

身ぶりや飛び方で、話をしているのです。

うたもうまいんですよ。

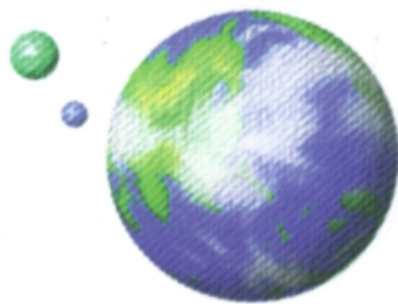
ぼくのうたを、ぜひきいてください！

TEO絵本 — 1

フィンフィンのなみだ

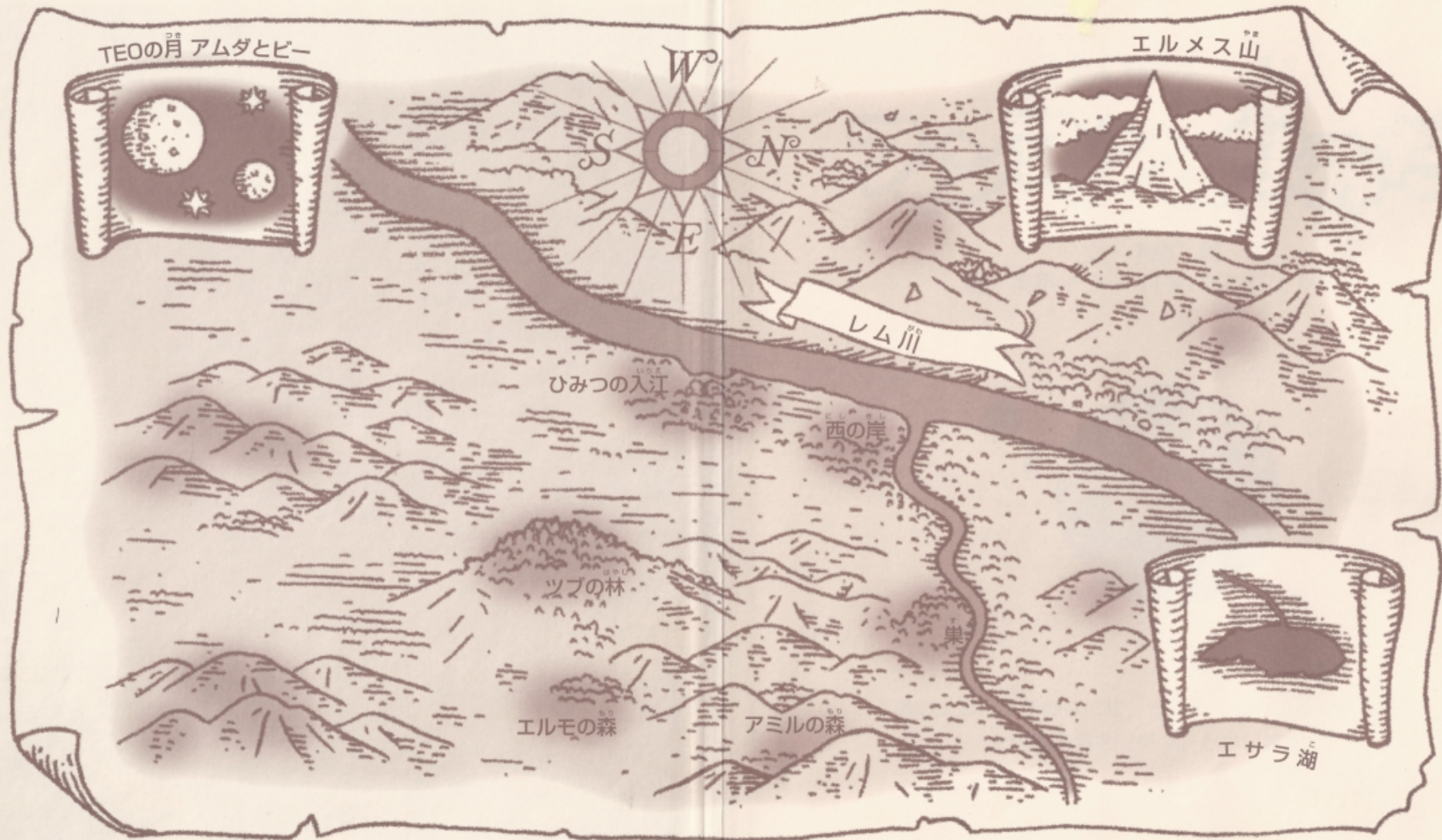
文/手塚 眞

絵/奥平イラ+ TEO プロジェクト



とおいとおい宇宙のはてに、地球そっくりの星があります。
その星の名を「テオ」といいます。

小学館



ペルナの地図



ペルナの森はきょうもいい天気です。

おや、空の上を何かが気持ちよさそうに飛んでいますね。

「ぼくはフィンフィン。空飛ぶイルカだよ。」

そう、ここテオの星では、イルカが空を飛ぶんです。

それにしても、ずいぶんと楽しそうですね。

「そりゃ楽しいさ。だって、きょうはぼくの誕生日なんだ。」



フィンフィンがうれしそうに飛んでいると、
ふしぎなものに出会いました。
何百という花が、はっぱをプロペラのように回して、
飛んでゆきます。
「この花たちは、いったいどこへゆくのだろう？」
フィンフィンはおもしろがって、
いっしょについてゆきました。
でも、ちょうしにのって
ずいぶん遠くまで来てしまって、もうへとへとです。

「ああ、のどがかわいた。
どこかにおいしい水はないかな。」
そのとき、きらっと森の中が光りました。
川か池があるにちがいありません。
フィンフィンのごくつつばをのみこんで、
森へまいおりました。

それは小さな入江でした。

フィンフィンが水辺に歩みよると、ごくごく水を飲みました。

「ああ、なんて冷たくておいしいんだ。」

それから、ゆっくり水に入って、気持ちよさそうにぶっかりうかびました。

すると、なんだかキラキラ光るものがフィンフィンのほうに流れてきました。

「おや、この石は水にういている。

きれいにすきとおっているし、かわった石だなあ。」

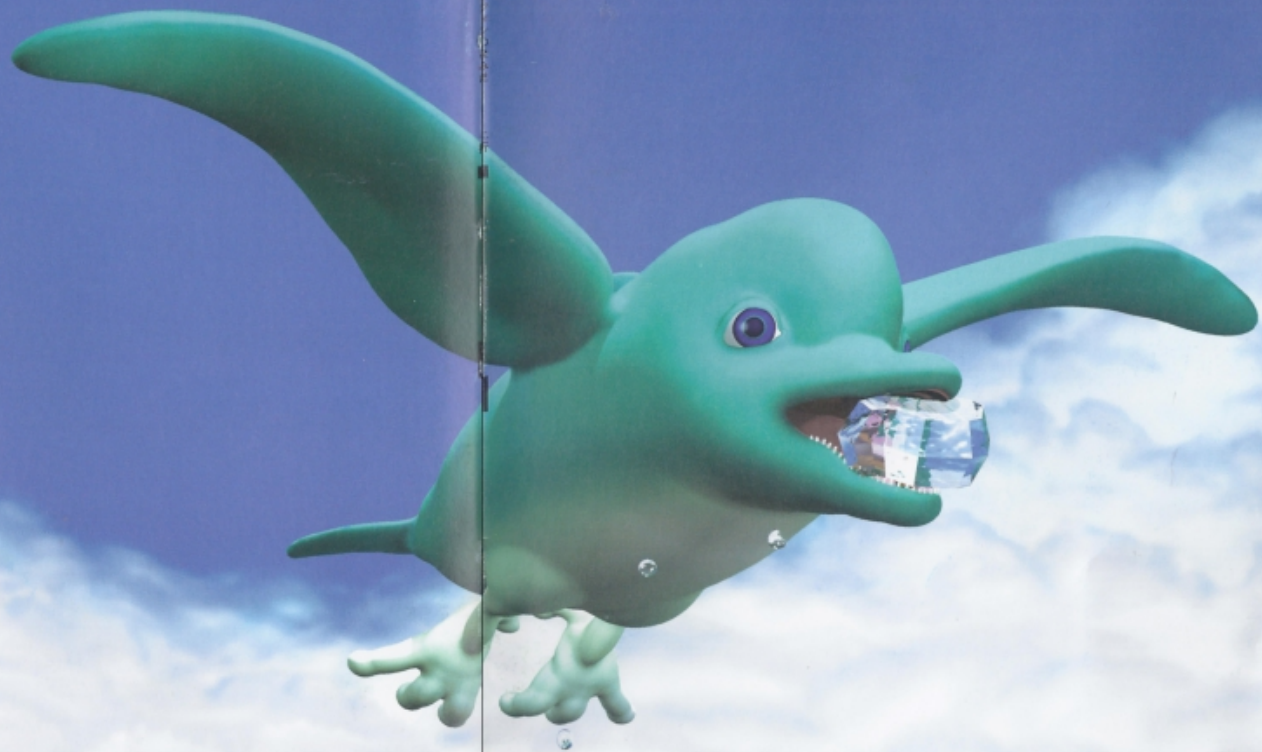
ふしぎなものが大好きなフィンフィンには、

ぴったりの誕生日のプレゼントです。

「こんなにめずらしいものは、みんなにも見せてあげなきゃ。」

そこでフィンフィンは、石をくわえると、元気よく飛びあがりました。





石はとても冷たかったので、
フィンフィンの口もだんだん冷たくなってきました。
それでもフィンフィンは、はやく友だちに見せたくて、
いっしょうけんめい飛びました。
やがて丘の上に、なかよしのパピロとポピロを見つけました。

「やあ、フィンフィン、こんにちは。」

「こんにちは。みんなに、とてもふしぎなものを見せてあげるね。
水にぶかぶかうく石だよ。」

「へえ、それはめずらしいね。ところで、それはどこにあるの？」

ところが、持ってきたはずの石が見あたりません。

フィンフィンはおどろいてキョロキョロ。

「フィンフィンはそっかしいから、どこかに落としてきたんでしょ。」

とバビロたちは笑いました。

フィンフィンはくやしくなって、ふしぎな石をさがしにもどりました。



「いったいどこに落としたんだろう。」

フィンフィン^{ヒンヒン}は森の中をさがしましたが、石はどこにも見あたりません。

森の動物^{モノ}たちに会うと、たずねました。

「このあたりに、水にうく、すきとおった石がありませんでしたか？」

「水にうく石^{いし}だって？ へんなことをいうやつだな。」





しばらくゆくと、木のあなの中に白い石のようなものがありました。

「あっ、あったぞ！」

おおよろこびで、石をひき出そうとしましたが、なかなか出てきません。

力いっぱいひっぱると、ついにすっぽりあなからぬけました。

「何をするんだ、らんぼうなやつだな。」

それはあなに住む、シェルビートルでした。

「ごめんなさい。まちがえました。」

でも、ここに水にうく石がありませんか？」

「そんなことをいって、ぼくをからかっているんだろう。」

さあ、あっちへいってくれ。」

シェルビートルはすっかりきげんをわるくして、

またあなの中へもぐってゆきました。





「いったいあの石はどこへ行ってしまったんだろう。」
フィンフィンが、とほうにくれていると、ペカフィッシュが通りかかりました。
ペカフィッシュは、水のあるところまで足で歩いてゆくさかなです。
「そうだ、あの水辺にゆけば、また石に会えるかもしれない。」
フィンフィンはそう思うと、ペカフィッシュのあとをこっそりつけました。
ペカフィッシュは、どんだん森のおくへ走ってゆきました。
そしてついに、ひみつの入江までたどりついたのです。



フィンフィンていは小さなあなあなを見つけると、その中でこっそり待ちました。

空気くわいはだんだん、ひんやりすずしくなってきました。

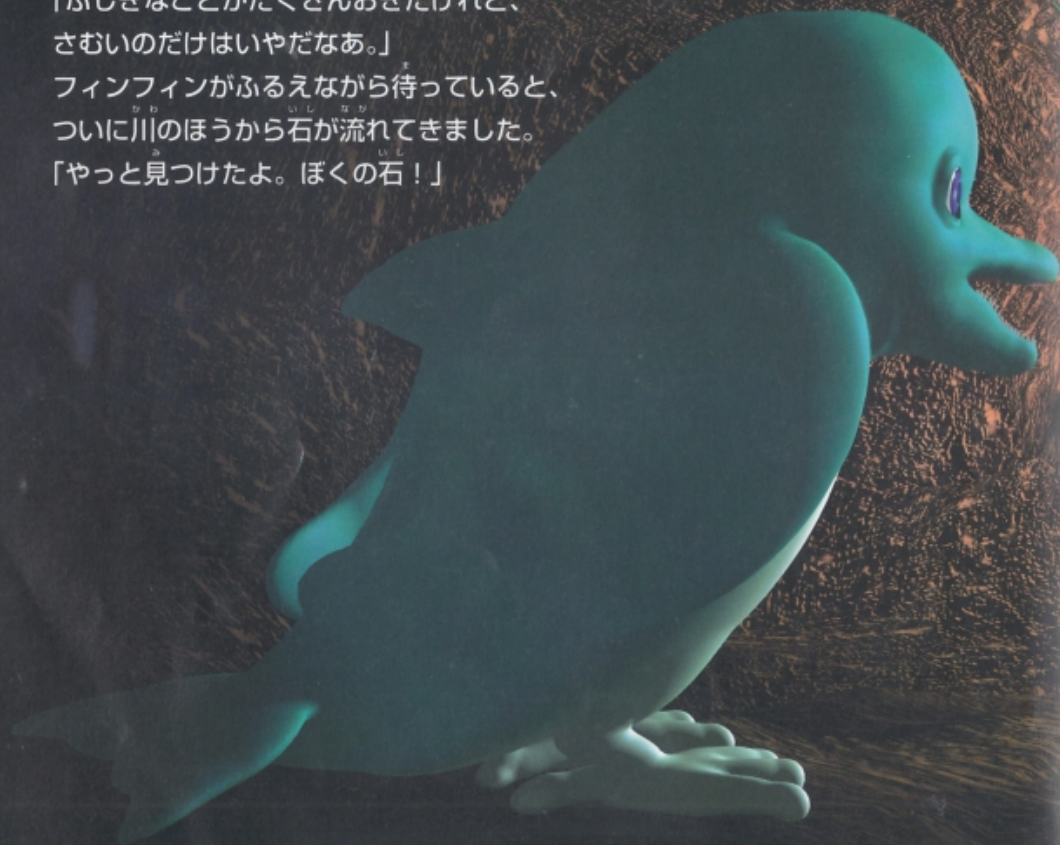
ペルナの森もりは、一年中、夏なつのように木や草くさがしげる、
とてもあたたかい土地ちです。

でも、きょうはめずらしくさむいのです。

「ふしぎなことがたくさんおきたけれど、
さむいのだけはいやだなあ。」

フィンフィンがふるえながら待っていると、
ついに川かわのほうから石いしが流れてきました。

「やっと見つけたよ。ぼくの石！」





フィンフィンがさっそく石をくわえて、飛びあがりました。
「また石を落とさないように、ぜったい口をあけないでいよう。」
フィンフィンはそう思い、ぴったり口をとじました。
ところがもどってゆくとちゅうで、
知り合いのハワチに声をかけられました。
「やあ、フィンフィン、どこにゆくのか？」
でもフィンフィンは石をくわえていたので、しゃべることができません。
「なんだい、返事もしてくれない。フィンフィンはつめたいやつだな。」
ハワチは、むっとしてフィンフィンを見おくりました。



「さあ、これがその石だよ。」

フィンフィンが口をあけると、
石はまたも消えてなくなっていました。

「あれあれ、ぜったいここに入れてきたのに。」

「夢でもみていたんじゃないの。」

ハビロはまた笑いました。

「それとも、ほくたちをだまそうとしているんだね。」

ポビロは笑わずに、フィンフィンをにらみました。

そこへ森のみんなが集まってきました。



「フィンフィンらはんぼうしたり、
こっそり後をつけたりするんだ。」

「あいさつしても返事もしない。ひどいやつだ。」

みんなは口ぐちに、もんくをいいました。

「だって、めずらしい石をみんなに見せたかったから。」

フィンフィンはいっしょうけんめい説明をしました、
だれも信じてくれません。

「そんな石なんか本当はないさ。フィンフィンのうそつき！」

みんなはフィンフィンを、なかまはずれにしてみました。



フィンフィンは、ひとりぼっちで悲しくなりました。
「きょうはぼくの誕生日なのに…。」
そしてぼろぼろ、なみだをこぼしました。





すると、またもふしぎなことがおきたのです。
空から、白い小さなつぶがたくさんふってきました。
「フィンフィンのなみだが、空からふってきた。」
と、みんなびっくり。





それは雪でした。

ペルナの森はいままでとてもあたたかかったので、
みんなは雪を見たことがなかったのです。
そして川にはあのふしぎな石がたくさん流れてきました。
それは、さむい北の国から流れてきた氷でした。



「フィンフィン、ごめんね。」
みんなはフィンフィンの話を
やっと信じました。
そして仲直りのために集まってきました。
雪で大きなケーキを作り、
フィンフィンの誕生日を祝いました。

それいらい、ベルナの森では、雪のことを
「フィンフィンのなみだ」といいます。
そしてフィンフィンの誕生日には、
毎年みんなで大きなお祭りを
することになりました。

地球では、この日のことを
「クリスマス」とよんでいます。



TEO 絵本

フィンフィンのなみだ

1996年12月10日 第1刷発行

文……………手塚 眞

絵……………奥平イラ+TEOプロジェクト

装丁……………奥平イラ+千木幸一

発行者……………田部井満男

発行所……………株式会社小学館

〒101-01 東京都千代田区一ツ橋2-3-1

電話 編集・03-3230-5427 制作・03-3230-5333 販売・03-3230-5739

振替 00180-1-200

印刷……………凸版印刷株式会社

進行……………黒田由美 (TEOプロジェクト)

編集……………桑原勝明

NDC913 32P 215×195mm

©1996 Macoto Tezka, Yla Okudaira

©1995,1996 FUJITSU LIMITED

Printed in Japan

ISBN4-09-727241-1

★製本にはじゅうぶんに注意しておりますが、万一、落丁、乱丁などの不良品がありましたら、おとりかえします。

★本書の全部または一部を無断で複製・転載することは、法律で認められた場合を除き、著作者および出版者の権利の侵害となります。あらかじめ小社あて許諾を求めてください。

手塚 眞 てづか まこと

1961年東京都に生まれる。高校生の頃から8ミリ映画を撮りはじめ、85年『星くず兄弟の伝説』を監督。以降広く映像作品を手がけるほか、「ヴィジュアルリスト」としてジャンルを超えた表現活動を続けている。TEOプロジェクト総合プロデューサー。著書に『夢見るサイコ』(新書館)『ヴィジュアルリスト』(新書館)『視覚的恍惚』(白地社)『ブラックモーメント』(幻冬舎)など。

奥平イラ おくだいら いら

1956年姫路市に生まれる。79年「ガロ」(青林堂)に『モダンラヴァーズ』を発表。マンガ家、イラストレーターとしてデビュー後、エディトリアル、アートディレクションなどの分野でも幅広く活動する。なお、ここ数年はその手法にコンピュータを加え、CGコミックやイラスト、マルチメディア作品を数多く手がける。TEOプロジェクト総合アートディレクター。

TEOプロジェクト CG グループ

池野 美紀

朝倉 民枝

田中真由美

野口 孝雄

吉兼 篤志

吸原 栄二

林 成輝

藤井 和幸

CD-ROM「TEO-もうひとつの地球-」に登場するフィンフィンやサブキャラクター、植物、背景のCG制作をおこなっている。